

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



笑顔が一杯！ — こどもおぢばがえり —
(7月26日～8月4日 詰所にて撮影)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ
祈る 動く つなぐ

立教177年
8月号

次の代へ信仰を渡す

学生層育成者講習会 開催

学生担当委員会

大教会学生担当委員会(山野弘実

委員長)は6月21日、福江弘一先生(本部学生担当委員会委員)を講師に迎え、大教会6月月次祭後に「学生層育成者講習会」を開催。役員・部内教会長・よふぼく・信者ら多数が受講した。

学生層をはじめとする道の後継者育成の重要性を理解すると共に、活動を広めていく事を目的に毎年開催しているもの。

福江先生は、信仰初代の入信の動機とその時の心定め、そしてその実践方法、これを信仰のバトンとして、しっかりと次の代に渡すことが大切と話された。

講話要旨は次の通り。

今の句はたすけの句・たすかる句と仰せられます。縦の伝道も正しく、にをい

がけ・おたすけだということを心に置いてお取次ぎさせて頂きます。一歩先に道を歩いている私たち全員が育成者です。本日の対象は皆様全員だという気持ちでお聞き取り頂きたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

◎信仰のバトン

前真柱様は、「親と子はお互いに似たような出来事に会うということがありますが、出来事を受け取る心遣いは異なっているのですから、末代の道は一代に続いて二代目がバトンを受け取って三代目にバトンを渡すまで、二代目の責任があるのではありません。三代目は三代目の役割を果たしつつ、四代目へと繋ぐのであります。」と信仰の伝道をバトンに例えてお話し下さいました。

私のおじいちゃん(父の代)・私の代と台風(毎回)やられておりますが、その大きな節を受け取る心遣いはそれぞれ違うのだから、その受け取った時の心定め等をしつかり伝えなさいということだと思えます。

また10年前に開催された後継者講習会において、真柱様はこのようなお話をさ

れました。「皆さん方は初代に当たる人が訳あって入信され、信仰を続けてこられたということ、更に忘れてはならないのは、入信の動機に加えて、その時の心定めは何であったか。この心定めほどのように実行されたのか、今はどうかという事を知ることが、皆さん方の成人にとって非常に重要な事柄であります。」

初代の入信のきっかけ・その時の節、また、その節に対する心定め、そしてその心定めの実行方法、これが親から子への信仰のバトンなんだよと仰っているのだと思えます。

この信仰のバトンをしつかり受け取って、次の代に渡すというのが今日のお話の眼目です。

◎縦の伝道の難しさ

私は非常に熱心なカープのファンで、子どもが5人おりますが、打順は、男・男・女・男・男。私、天谷の大ファンで、上のお兄ちゃん達二人とお風呂に入っては、天谷の応援歌歌ってスクワットしてたんです。1歳の長女もずっと一緒に練習をしております、初めて喋った時に、「あまにゃ」と言った。それほど我が家

<実行目標>人のたすかりを願ひましょう



おたすけ・お願いカード 集計: 41, 696枚

平成26年6月21日~7月20日

累計: 369, 222枚





学生担当委員 福江弘一先生

にはカープの雰囲気満ちています。しかしこんな洗脳されるようなカープ信仰の家庭に育ちながら、次男坊は6歳になる時に僕に、「お父さん、僕ねえ、実は日本ハムが好きなんよ」と告白してくれた。「どうしたんあらた、ファイターズはお前北海道ど。応援なんか行かれんど。」と言ったんですが、「じゃけどね、僕、ダルビッシュがええんじや」と。

あー、縦の伝道は難しいな、と思った。お父さんが毎晩欠かさず命懸けで、ラジオをお風呂にまでも引きずり込んで応援をしても、なかなか子どもにはその熱意が伝わっていないんだなあ。

ところが有難いことに、三つ上の長男坊はすっかりカープファンですから、お父さんがなぜそんなに真剣にカープを応援しているのかを次男に教

えながら導いてくれます。「あらた、カープは貧乏なのにつつも一生懸命なんよ。内野ゴロでも超速く走るんじゃけー。」と。「上手くなった選手はみんな巨人と阪神に行ってしまうけれど、入団したらすぐ選手として使ってもらえるかもしれんのよ。」とか言つて魅力を伝え始める。「あらた、キャッチボールしよう」とお兄ちゃんがしてくれて、「そうそうそう、マエケンみたい、マエケンみたい」って褒める。「今日はじゃあこのリストバンド一日だけ貸してやるよ。」と、知らず知らずのうちにカープのファンになっていき、この布教熱心な兄のお陰で、今では学校から帰ったら、「お父さん今日どうやった？」と聞くぐらいのファンになっております。

学生生徒修養会、学生会などに参加すると、うちの長男のような子が沢山います。お道の素晴らしさ、そういったものを持っているお道の若い人は多くございます。

子供の頃から道の苦労の中で育った教会のお子さん方は、制服は勿論、絵の具も習字道具も、クラスのみんなと同じものを使わせてもらえないことが多い。新しい何か彫刻刀などを買わないといけない時期になると、何かと寂しい思いをしたことがあると思います。

ところがそういう方が学生になり学生会に行

くと、昔の苦労話が急に自慢話に変わる。例えば野球部に入つて、古いグローブと古いスパイクを使うことは非常に恥ずかしいことだったのが、学生会に行つて話をする、そつちの方が自慢になる。「僕はねえ、四男なんだけれど、僕のスパイクはスパイクなのにスパイクがついてないんだよ。お兄ちゃんのお古のお古のお古だから。」へーすごいね、お前んち」と言つて、世間では考えられない価値観で話ができる。

◎学生会行事は親の信仰にスポットを当てるきっかけ
お父さん・お母さん、一生懸命道を通っている会長さん・奥さんにスポットが当たる場、それが学生会、また学修だと思えます。

ある教会のお嬢さんは一人っ子で、教会の跡取りとして育てられていました。

小学校の高学年頃になると、お母さんである教会の奥さんは、色んな方を教会に預かるようになった。年をとつてご飯もお風呂も一人で入ったり食べたりできにくいようなお婆ちゃんや、仕事を辞めてお酒に溺れているおじさんなど、次々と預かるようになったそうです。

少女時代の彼女は、お母さんは人の世話ばっかりして、少しは私のことも構つて欲しいのにと思つていた。また、お父さんは上級だ、大教会だと言つていつもいないし、と。彼女はそういつた

両親に対して、だんだん反感を持つようになった。親への反抗がいつの間にかお道への反抗にすり代わって、「お道はこんなだから嫌よ、天理教はしない。」という風になってきた。

父である会長さんは、我が子になかなか道が伝わらない、と非常に悩んでおられた。そのうちに高校を卒業して、保育士の短大に入った。会長さんは勝負をかけて、一年生の夏にこう仰った。「他のお道の行事には何一つ出なくていいから、学生生徒修養会に一回だけ行ってくれ」と。「わかった一回だけよ。」こう言って彼女は春の大学生の学生生徒修養会に参加した。

ところがグループワーク、打ち解けるまでであったという間だったと聞きます。そして班のみんなが今まで言えなかった悩みをお互いに話すようになった。ついつい自分も子供の頃から、親に対して反感を持っていて、今はお道を離れたいと思っている、と。するとみんなが頷いて泣きながら聞いてくれた。「すごいねー」「お母さん偉いねー。」「私のところの会長さんの奥さんと同じだね」とみんなが言ってくれる。そうやって班のみんなが悩みを打ち明け合う中に一人の女の子が、「私は笑顔になれないの」と。過呼吸が続いて、顔が引きつって顔の片方があまり動かなくなってしまうそうです。みんなが心配し、「おさげさせてもらおう」「朝勤めの前にちよつとだけ早く神殿

に行つて、お願い勤めもしようね。」と班でするようになるんですね。学修の最後の日には笑えなかった女の子の緊張がほぐれて、「ほら少し動くようになったよ」と言つて笑つた。それを班の悩みを打ち明けたお互いが、感動の渦の中で抱き合つて喜んだと聞きました。

おぢばでの一週間、その彼女にとっては、価値観の逆転の逆転と、ずっと逆転することばかりだった。「今まではお母さんは人のために苦労ばかりしてバカみたい、と思つていた。だけどお母さんの苦労はこういう人助けの苦労だったんだ」と。

後日会長さんが、「うちの娘帰つて来て、私、お母さんみたいになりたい、つてこう言つたんですよ。その後、預かつているお婆ちゃんのお風呂を入れる手伝いをするようになって、お願い勤めをしようよ、と言つて、教会でお願い勤めが始まったんです。福江さん、学修つて一体どんなところなんですか。」と。

彼女が一転してお道大好き、教会大好きな子になったのは、学修のお陰のようですが、元々彼女は素晴らしい信仰の種を持っていたんです。学修というところで胸が耕され水を与えられたところに、ああ、お父さん・お母さんの信仰はすごいんだということが納まったんですね。

こういった意味で学修は、親の信仰にスポット

を当てるきっかけなんだということですよ。

◎学修は共に育つおたすけの現場

近年の学生生徒修養会には、今の社会情勢を反映する受講生、目に見えない身上を抱えた子が沢山受講されます。

近年では珍しくないんですが、短い髪をして、ストラックスを履いてくる女子高生がいる。性同一性障害で悩んでいる子達です。

数年前、高校一年生の38母屋の寮でスタッフをした時、若々しい子が集まってくる中に、短い髪をして黒いズボン、学生服の子がいた。案の定、班のカウンセラーさんがすぐ事務所に飛んできて、「○○ちゃんは、心は男なので、女の子と一緒にお風呂は使えませんが、着替えるのも一緒にできませんって言っているんです。」と言いに來る。今までもそういったことがあったので、7階のシャワーと別室を用意しようと相談がついた。期間中、遠目に眺めていると、非常に元気でカウンセラーさんを困らせるぐらいの子でした。その学生のお世話取りをするカウンセラーさんは、30分の間に一緒にお風呂に入るんです。お風呂は38母屋の1階ですから、カウンセラーさんが生徒を連れて行きます。事務所に鍵を取りに来てシャワーに入れるためにその女の子を連れて7階に上がってシャワーを浴びさせて、その間に自分は降

りてお風呂に入つて、また上がつてその子を迎えに行き、班のみんなに合流させる、これを毎晩。

そのうちにその子がお礼ひとつ言わずに、もう早くしてよつてい感じの子でしたから、カウンセラーさんもだんだん喜ばなくなつていた。このままじやこの子は潰れてしまふと思ひ、直接(所属)会長さんに電話をさせていただいた。聞くと、高校一年生の春から里子として預かつている子だと会長さんが仰る。「実は誰にも言わないで欲しいのですが、彼女は性同一性障害ではありません。あの子は私たち夫婦、特に家内に非常に反抗的でした。部屋を覗いたりしたら以ての外、ねえねえと触るだけでも、やめてよ触らないで、と言う。どうしたらこの子が心を聞いてくれるだろう、私たちには無理なのかなと。そう思った頃に学生生徒修養会の話を聞き、ああそうだと学修だ、と思つたんです。」と。そして会長さんが、学修に行かないか、とその子に何度も学修は楽しいよと話をし、やつと、じゃあ行つてもいいよ、ということで行つてくれることになった。学修が近づいた頃、その娘さんが突然教会の奥さんに「おばちゃん、一緒にお風呂に入つてくれる?」と言つた。なつかしかったその子がそう言うので、奥さんは喜んで一緒に入った。会長さんは、ああ大丈夫だろうか、とドキドキしながら待った。しばらくして出てきて、娘さんの方は泣きはらした

顔で、2階に上がつてしまった。奥さんも真つ赤な目をして出てきた。「あの子ね、一緒にお風呂に入つて上着を脱いだら、すごいたくさん火傷の跡とアザのあとが背中いっぱいあるのよ。あの子は私にこう言つたのよ。おばちゃんこんな私でもみんなと一緒に泊りしても大丈夫かな。私本当は行きたくないよ、と言つた。」と言う。二人は抱き合つてしばらく泣いたんだと。その話を聞いて会長さんは奥さんと色々相談をした。初めて会う友達に知られたくないと言うので、制服を着せて心は男の子なんだということで、着替える時だけ別にしてもらつたらどうだろうという話になった。「福江さん、会長夫婦で相談して出た答えがこれしかなかった。どうか許してやつて下さい。家内と抱き合つたあの日から、あの子は本当の私たちの娘になりました。」と仰る。「わかりました、今聞いたことは私と寮長だけが聞いたことにします。そして担当のカウンセラーが一生懸命にお世話取りしているので、彼女だけには言つてもいいですか。」「いいです」ということで、早速疲れきつているカウンセラーさんと呼んで、事の由を伝えた。

カウンセラーさんはその理由を聞いてから、顔がキュッと変わり、「送り出した会長さん奥さんの思いがどれほどかかっているのか、自分は気づきませんでした。そして存命の教祖が他の誰でも

ない私に彼女を預けて下さつた、その教祖のお心を想つと不足ばかりしていた自分が情けなくしょうがありません。私は必ず彼女を喜ばせて帰ります。」と班に戻つてくれた。先程までの疲れ顔とはガラッと変わつて、たくましいおたすけ人の顔になつて、また、彼女に向き合つていくようになりました。

ちばの理・教祖のお働き、そしてカウンセラーさんの真実の働きで、彼女は1週間で同じように価値観を少し変えて頂き、心を丸くしてもらつて教会へ帰つて行きました。教会に帰つたら夕勤めと一緒に勤めるようになったと聞きます。

子育ては親育てと聞きますが、学生さんのお世話取りをしていると、学生さんたちは私たちを育てて下さつていて、と実感します。

真柱様が学修のスタッフに対して常にこのように仰せられます。「みなさんが成人しているからこの任にあたつてもらつていいるのではありせん。共に成人するといふ姿勢が大切です。」と。

◎にをいの元はにをいがける者の心にある

私は大学時代、東京に行つて、サッカーをしていました。冬になりサッカー仲間ですキーに行こうということになり、一日スキーして夕方お風呂に入った。皆で入つてると、子供たちが二・三十人どやどやどやと入つてきた。一瞬にして桶が散

乱して泡だらけになって、体を洗ったか洗ってないかのような子がどぼどぼと湯船に入る。僕たち大人は、あーあ、せつかくゆったりしてたのに、と思いつながら子供たちの話に耳を傾けるんですね。そうすると、「たつちゃんたつちゃん、今日の僕のスキー、ボーゲンどうだった？ よかったよねえ」、「たつちゃん、今日どうする？ 枕投げしようよ」とか言つて、このたつちゃんという子が会話の中心人物だった。

しばらくすると子供たちは去つて行き、やつと静かになった。とある一人の男の子が桶を持ってお湯をすくつて汚れた泡を流し始めた。そして椅子と桶を横に積み終えて、入口のところに来て、「お騒がせしました」と出てつたんです。すごい爽やかな空気がこの浴室いっぱいに広がつてね。私はピンとききましたから、直ぐにその子を探しに脱衣所へ行つた。その子はたつちゃんだった。「たつちゃんつたよね。」「はいそうです。」「たつちゃんのお父さんつて何してる人？」つて聞いたんです。その子は僕を見上げて、「うちのお父さんは天理教の教会の会長さんです」と言つた。今思い出しても、鳥肌、感動です。僕はその時、その10歳のたつちゃんに、いをかけてもらった。お道つてすごいんだな。帰りの車の中で、そういうば学修に行かないかとオヤジが一回だけチラシを送つてくれたなと思ひ出して、親孝行に

一遍行こうかなと。

その後の3月に初めて参加しました。そこでさつきの学生さんたちと同じように感動を頂き、やつぱりお道を通ろう、と思つた。たつちゃんのお陰です。

しかし、そのたつちゃんを育てた、ご両親家庭・信者さん方・教会の雰囲気、すごいんだろうなあと思つた。又、私とその学修で感動したということは、私に、いをつけてくれた両親・祖父母・教会の皆さんが、一人の人を育てたということだと思ひます。

立教160年学生生徒修養会高校の部、明日から学修という時に、前真柱様はスタッフ三百名に向かつてこのように仰せ下さいました。「に、をいの元は言うまでもありません、に、をいがけをする者の心にあるのです。ですから、に、をいがけ、おたすけの心で掛かつてくれと、私が言つたことは皆さんの心の内にある親神様を絶対とするその信念が相手方に伝わるることによつて初めてその子は今までよりも道を知ることになるわけでありませう」と。

たつちゃんのに、をいは、たつちゃんの心にある。しかししたつちゃんのに、をいの元を作つたのは、その親の心が映っているからでしょう。信者さんの子供は未信者、極端に言うとう教会長である私の息子も未信者だということ。前真柱様が仰る、

に、をいの元はに、をいがけする者の心にある、この点を忘れずに、学生に、また、少年会員にはごどもおぢばがえり、少年ひのきしん隊へに、をいがけしなければいけないと思ひます。

◎ひながたの道を求めることが何よりの縦の伝道
真柱様はひながたの道を求めることが何よりの縦の伝道だと仰つておられます。真柱様は学生担当委員会発足30周年の席上で、次のようにお話し下さつた。「育成者が学ばなければならぬことは、どんなことがあつてもご存命の教祖の思召に添ひ切るといふ神一条の思案であります。」

先にお話ししました別人のように感動をいただいで、別人のようにお道への考え方が変わる方々の共通点は、親御さんや教会長さんが神一条の思案で通つておられるという点だと思ひます。

近所の仲のいい女性の会長さんがこの間、「母さん、どうせやるんじやつたら、もうちよつと真剣にお道やつたほうがあええよ、僕は継がんよ、つて息子が言う。」と。

山口県には萩焼の窯元があり、国宝が生まれる窯元には弟子が一杯入つてくる。そうでもない窯元もある。そこに息子が生まれたとする。「お父さん、僕も跡を継いで人間国宝を目指してやるからね。」「馬鹿言うな、うちはダイソーさん専門だから。そんなん国宝なんか目指さんでも同じよう

な形作つとつたらええ。安うできたらええんや。」という家に生まれて、継ぐかと。

貧乏でこんなに苦勞して、何にも無いけれども、必ずこんな人になるという親の背中を見せて通るのが、この教えだと思ふのです。「お母さん、真劍にやらんと僕は継がんよ」と言う息子の気持ちわかる気がしますよ。

親神様は元の神・実の神であるというこの絶対的な事実を若い人に伝えられるかどうかは、私たちの日頃、日々にかかっている。お勤めを軽くする、それが若者に映って教祖がだめの教えとして命懸けでお勤めを教えて下さったのに、若者から軽い偽物のようなレッテルを貼られるのは、今道を通っている私たちの責任だと思います。私たち大人の信仰姿勢によって、本物の教えを本物だと信じて通れる子が増えることは間違いない。

真柱様は、お話の続きでこのようにお話し下さいました。「おさしづに、育てば育つ、育てにや育たん、道に外れたる心で育てようと思うたところが育たん」とあります。人を育てるには人を育てる強い意志がなければなりません。そして何よりも育てる側の心の置き所が問われます。まず、育てる立場の者が、教祖の親心に近づかせていたかなければならないのであります。育てる者が育つことによって、初めて人を育てられるのであります。教祖のひながたを大人が求めれば求め

るほど、その子供が育つんだと、仰つておられま

す。私はついつい、背中で道の苦勞を子供たちに伝えてしまっている気がするのです。「ああ今日も講社祭り2軒行つて、おたすけ1ヶ所行つて、やつと帰つてきたよ。」という感じで、家に帰るとぐたつとしてしまう。本当はおたすけの喜びを語つてやらねばならないのにと反省をするわけです。

真柱様は仰る。「次代を担う若者へ私たちが伝えなければならぬことは、教祖の思召に則した信仰の喜びでありますから、まず、自らが日々陽気ぐらしを實行してその姿を映して親の教えが届くように根気強く勤めて頂きたいと思ひます。」こう仰つて最後に「どうか教祖が教えられた誠の道を確認たる信念を持つて歩み抜いて、一人でも多くの立派なようぼくを育ててくださるようにお願ひし、挨拶とします。」と締めくくられました。まず私たち自らが信仰の喜びを日々実践して陽気ぐらしを味わいなさい、それを伝えなさいということ

◎志は増える

私は、夢というものは減っていくものだと思います。今更、うちの家内がAKBに入りたいと言つても、これは無理な話で、夢はだんだん減っていくものです。けれども志だけは増えていく。

私は大学卒業後、アメリカに2年間留学させていただけで、初めておさづけで人が助かるという感激をしたことがあります。その時に、この道は間違いないと思つた。

地球はその当時、日本の阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件で大変なことになっていた。「地球はもうだめだな。他にも陽気ぐらしの星がいっぱいあるんだから、星の生まれ変わりで一から作り直そう」、親神様はそう仰るんやないか。

その時に、「待てよ、ここに福江弘一という奴がおるからもうちよつとこの星を見ておこうか」と思つてもらえるような、どうせ通るならそんな道を通ろうと、23の時ですから、そのぐらい思つたんです。その後、日本に帰つて大教会の青年に入れていただいて、すると出会う先生、お話ししてくださる先生、素晴らしい方ばかりで、「ああこの先生がおられるから、地球は守られる。今でも親神様が楽しみにしてくださってるんだ。」と思つた。この星を守るためにお道を一生頑張ろうという若造の面白い志。それは出会う先生方の志を頂いてますます大きくなっていった。「世界だすけを掲げる教えの信仰者である」と論達にもあるように、すごい大志を今私たちは背負つて論達を読ませて頂いております。

この大志を次の世代に伝えていくことが縦の伝道ではないかと思ひます。

昨日、部内の教会の息子で18歳、天理高校生3年生の両親が、「大学に行きましようか、専修科行こうか、大教会青年か」と相談に來られた。20年後の教会の形で、一番大事なのはその18の彼が38になって、「お父さんそろそろ僕継ごう。嫁さんも貰ったし、お道のこと一生懸命やってくれる奥さんだよ」と、それが本当の教会の姿だという話になった。

カーナビも面白いもので、目的地を入れておくと、逆の方に行っても、「右です、右です」って戻してくれます。この子の将来を相談して、神様に対しても、目的地はここです、おたすけの役に立つ者にして下さい、という心を決めれば、最初に出会う曲がり角をどこに行くのか、大学に行くのか、専修科に行くのか、角を間違えても必ず親神様は元の目的地に戻して下さるのではないかと、そういう話にまとまった。

世界だすけへの若い人たちに大志を伝えて、若い人達が抱けるようなお道になっていけるよう、努力して行きたいと思っております。

学生生徒修養会、また春の学生おちばがえり、少年ひのきしん隊、おちばの行事は教会や家庭でできない丹精をすごい真実でしてくださいますので、是非、学生に声を掛けて送り出してくださいと思います。

「にをいのもとにはにをいかけする者の心にある」

という前真柱様のお言葉を胸に、これからも声だけに努めてまいりたいと思います。ありがとうございます。《以上要約》

よふぼく勉強会開催
テーマは「親孝心」
7月月次祭後
育成部

育成部(吉岡壽部長)では7月21日、大教会7月月次祭後、会議室で「親孝心」をテーマによふぼく勉強会を開催しました。



「親孝心」の喜びを

く勉強会を開催、38人が参加した。今回のテーマについて高木孝子講師(湯田原分教会長夫人)は自らの体験を通して父母に孝養を尽くす喜びを懇切に話された。

引き続き、同テーマについて参加者の意見やそれぞれの思いなど活発な意見交換が行われ、様々な立場、年齢の方が話され有意義に終講した。次回の勉強会は8月月次祭後、テーマは「八つの埃り」、講師は吉岡貞彦(芦田川分教会長)。

「テッチャンシアター」開催
7・21 祭典後
少年会

ジャン！夏本番を思わせるような暑さとなりました。今日は、7月21日大教会祭典です。

又、2〜3日前から夏休みに入りました。今日は「テッチャンシアター」の日でもあります。

祭典終了後、神殿にはたくさんの子供達、少年会員が集まってくれました。本日の担当は、藤本久美さんです。「ぼくのひのきしん」という題材でパネルシアターを、その途中には久美委員のかわいい声で歌も入れて下さいました。その歌を紹介しましょう。

『おそうじ、おつかい、おるすばん、くさひき、



夏休みで賑わうテッチャンシアター

にわはき、おかたづけ』身近な所にお手伝いはいっぱいありますネ。元気で体を使わせてもらえるのは、当たり前のことのようで本当はとて有り難い事です。

ちよつとどこかが痛い、しんどいだけでも人間は気にします。今日も体を元気に使わせてもらえる事に感謝してお家の方にまわりの人に喜んでもらえるよう、この夏休みは少しお手伝い、ひのきしんをさせていただきましょうネ！まわりの人が喜んでくれると、自分も不思議と嬉しいものです。やってみて下さいネ。では夏休み元気で楽しく過ごしましょう。来月8月21日も大教会で待つてます。

参加者 少年会員74名 育成会員28名
(少年会委員 丸山 哲子)

「子どもおちばがえり」を 振り返って

「立教177年子どもおちばがえり」が、7月26日から8月4日に亘り、「よろこびいっぱい！さあひのきしん」のテーマで開催されました。

昭和29年に、「おちばがえり」子どもひのきしんとして始まって60年。

今年も国の内外から大勢の子供たちが親里に帰り集い、さまざまな行事を通して、教えを学び、仲間と共に感謝とたすけあいの心を育みました。

朝のおつとめで真柱様は、「おちばで親神様教祖がみんなの帰って来ることをお待ちになつて居る。このおちばは、親神様によって人間が創られた元の場所であること。それはすべての人間のふるさとだから、おちばに行くことを『おちばがえり』』と言い、おちばでは、『おかえり』と声をかけてくれるのです」と、おちばがえりの意味合いを分かりやすく説明され、さらに、「どういふ心づかいをしたら親神様は喜んで下さるかということとを覚えて実行してもらいたい」とお話下さいま

した。

大教会では各ブロック、教会単位での帰参がっぎつぎと続き、詰所は連日、瞳をキラキラと輝かせ、明るく元気な子供たちの姿が見られました。

今年も育成部による朝のおつとめ、ラジオ体操目標(めどう)発表などがあり、ケジメのある日課となり、また、毎日夕方5時より、育成会長様より帰参の隊に感謝状が手渡されました。恒例の模擬店は4回開催され、定番のフライドポテト、かき氷、射的、スーパーボールすくい、輪なげに、今年から始めた「たません」も美味しいと好評でした。また、ビデオ上映、クイズなど詰所での行事も各々で楽しんでいました。

今年の「むつみ鼓笛隊」は、直轄、福山、高屋の3隊が日頃の練習の成果をお供え演奏しました。

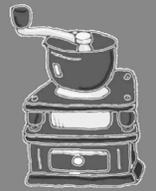
今年も連日猛暑が続き、熱中症など心配されましたが、大過なくつとめ終えさせて頂くことができました。

また来年もおちばに帰ってきた子供たちに、喜びを一つでも多く持って帰ってもらえるようにと思ひます。

子どもおちばがえりに当たり、大勢の皆様のお力添え、お心寄せをいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます♡

(少年会団長 武内 正美)

談話室



130年祭に向けて 向日葵

大教会 谷本篤子

▼平成10年夏、私はガンで開腹手術を受けました。この時のお願いとめで別席を心定めた娘、4年後、私(母親)が生かして頂いているお札にと別席を運んでくれた息子、それぞれに用木にならせていただきました。

▼弥高山の会長様(母の妹の主人)が、5月7日に笠岡市民病院に転院されているのを聞き、16日、娘は仕事帰りにお見舞いに行きました。

娘は従妹(いとこ)の出直し(一昨年末)がトラウマとなり、おさづけを取り次ぐことに恐れを感じておりましたが、和夫先生は、その気持ちを分かり、待つて下さいました。

少し時間をおいて2度目のお見舞いになりましたが、和夫先生のおさづけに対する気迫と明解な説明を受けて、娘はおさづけを取り次がせて頂いた様です。

▼理の親にその事を報告と共に私自身はどんな対応をすれば良いかとメールすると、何千字もの長

いお返事と共に「私(理)の親の口から『どうせこうせ』とは申しません。『良かれ』と思うことをなさってください。』とのお答を頂きました。その時は難しい事を言われるなあと思いましたが、後で、私のこころの伸び代を期待して下さった事だと気が付いて、通常モードから非通常モードにスイッチを入れ変えることができました。

▼5月18日、帰宅している息子と一緒にお見舞いに伺いました。私もおさづけの取り次ぎの初心者です。精一杯取り次がせて頂きました。すると、和夫先生が「確か峻君もおさづけが取り次げたなあ。取り次いでくれるかな?」。返事は即答の「ハイ」でした。息子は今までおさづけを取り次いだ事はありません、取り次ぎ方はぎこちなかったですが、なぜか清々しさを感じました。

6月11日の講社祭で理の親に話すと「親の篤子さんとは意識の違いですね。さすが峻君!!」。おさづけの取り次ぎの手順を間違えたらどうしようとしか思えなかった私と比べて息子の潔さに脱帽です。形にこだわっている自分がとても恥ずかしくなりました。

次の帰宅は6月12日。14日に、井原の自宅からバスに乗って笠岡駅で鉄道に乗り換え、一人で新見に帰る事になっていました。乗り換えの時間があつたので、14時頃、大きな荷物を二つ持って笠岡市民病院にお見舞いに行ったそうです。

18時過ぎ、私が病室に入ると、和夫先生は、開口一番「峻君が大きな荷物を持ってお見舞いに来てくれたよ。」と、とても嬉しそうに話して下さいました。その笑顔と息子の行動に元気を貰いました。

20時過ぎ、息子から「新見に着いたよ」と連絡を受けた時、「岡崎のお父さん悦んでおられたよ。また来て欲しいと言われてたよ」と伝えると照れている様でした(息子は、弥高山の会長様、ご夫妻を「岡崎のお父さん・お母さん」と言っていて慕っておりませぬ)。

7月19日にも帰宅しました。今回は、21日に新見まで自動車ですって行く約束をしていました。大教会の月次祭を二人で参拝させて頂き、その帰りに病院に立ち寄らせて頂きました。息子のおさづけの取り次ぎはまだぎこちなかったですが、「また峻君に会いたいな」と言っていました。理の親にその事をメールでお伝えすると「寸暇を惜しんでの連日の御見舞、頭が下がります。」との返信を頂きました。

息子は不思議な人です。私の出合いのチャンスを作ってくれ、出合う方々とのこころの絆を強く結ぶようにしてくれている様です。

▼和夫先生が、私に何を望まれているのか分かっていないのに、お見舞いにさえ行かなかった私に、一步を踏み出す勇気をくれた出来ごとでした。

<布教部>

○布教推進強調月間

- ・全教一斉にをいがけデー 9月28日(日)～30日(火)
- ・全教会長路傍講演日 9月28日(日)
- ・布教部員にをいがけ活動 9月5日(金)～6日(土)

全教会長の参加を。

笠岡部内を拠点にして活動

○本部食堂ひのきしん

日時 10月1日(水)～15日(水)
割当 東ブロック

<育成部>

○よふぼく勉強会

日時 8月21日午後1時15分～2時
テーマ 八つのほこり
講師 吉岡貞彦(芦田川分教会長)

<青年会>

○たすけの渦を巻き起こそう推進の集い

会場 笠岡大教会
日時 9月7日(日) 8:30集合 9:00開講 15:00ごろ解散
内容 青年会本部委員長お話し、にをいがけ入門・実動、会食(バーベキュー)
対象 全青年会員
※半ズボン、サンダル、ノースリーブ不可

○全分会布教推進週間

期間 9月7日(日)～14日(日)

<少年会>

○テッチャンシアター

日時 9月21日(日) 祭典終了後

○テッチャンと遊ぼう(わかぎのつどい)

▼表紙写真

構成・友井道弘かさおか編集部員
撮影・上原喜三詰所掛員



▼養徳社発行『陽気』誌八月号、「道柳」より転載。今回の課題は「命」。
▼佳詠
・芦品分教会教人 金谷眞佐代さん
身上でも命あること感謝して

▼7月27日付「時報俳壇」
・備中分教会よふぼく塩飽利子さん
川に沿ひてひとり散歩や合歡の花
天道虫はどこへゆくのか

▼7月20日付「時報歌壇」
・海松ヶ岡分教会 池田広子さん
突き出した幼の手より飛び立ちぬ

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載
笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましてので転載させて頂きます。おめでとうございませう。

こころの詩

七月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「反対する者も可愛い我が子 念する者は尚の事」と分け隔てのない子供かわい一条の親心のま
まに日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております 分けても今は季節はずれの台風八号の影響で各地で被害を
もたらした梅雨も明け 子供達の夏休みと共に夏本番を迎える等 季節の移り替わりを通して火水風の御守護を味
わわせて下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は「成つて来るのが天の理」と常に
たんのうの心で喜びと感謝に変え 日々は御恩報じを念じて朝夕に御礼申し上げると共にたすけ一条の御用の上
に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は七月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同たすけ
心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には折からの暑さも厭いませ
ず 今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げつ
つ四万一千六百九十六枚のおたすけお願ひカードを通して人の救かりを願う皆の誠真実の状を御覽下さいまし
て親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さていよいよこどもおちばがえりが目前に迫つてまいりました 一人でも多くの子供を連れ帰り親に喜んで貰
い 子供にも親の息を掛けて頂きたいと募集の上にな努め励ませて頂いておりますが 子供達が喜び一杯の心になる
為にも事故怪我等のないようお連れ通りの程をお願い申し上げます 又夏休みは道の後継者育成の絶好の機会で
ございますので 同じくおちばで開催される学生生徒修養会高校の部や大教会で開催の英語講習会やキャンプそ
して夫々の教会でのお泊まり会への参加声掛けに力を注いでまいります 加えて教祖百三十年祭に向けての実践
項目である成人目標の「つなぐ」にも力を入れると共に「祈る」「動く」についても家族で話し合い その内容が
自分さえ良ければの思いが広がっている今こそ必要な思案 行いである事に気付き 家族揃つての実動によつて成
人の歩みを早めて行く所存でございます

何卒親神様には 暑さ寒さも人生の味わいの一つと 喜び心一杯にたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受
け取り下さいまして 願う心の誠の理に自由の御守護を賜り 欲に切りない泥水よりぬけ出る人が増し 万互い
にたすけ合う神人和楽の陽気づくめの世の状に 一日も早く立て替わりますようお願い申し上げます 一同と共に慎んで
お願い申し上げます

大教会だより

◎教人資格講習会(全期)修了者

立教176年8月10日終講
鶴 眞 頼 経 萌

◎教人資格講習会(後期)修了者

立教176年8月10日終講
國 須 原 田 良 平
國 須 原 田 恵 理

◎本部食堂ひのきしん

自 立教176年7月16日
至 立教176年7月31日
上 下 押 尾 功 司
上 下 秋 山 いう子
國 須 小 西 紀 恵

◎こどもおちばがえり

詰所受け入れひのきしん
前 半

自 立教176年7月26日
至 立教176年7月30日
照 陽 中 村 道 徳
葦 陽 笹 尾 一 美
福 芦 藤 原 徳 美

立教百七十七年 七月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぼん	笛	てをどり	おつとめ	地	方	役割					
													区分					
今川佐智子	佐藤香苗	虫明好美	浅野明教	内海史郎	上原志郎	森本忠平	谷内伸自	中島誠治	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	岡本久善	大教会長様	山田敏教	今川昌彦	中村剛	坐り勤
森本富美子	三島照美	谷内美知子	高木昭祥	横山逸郎	岡崎輝彦	吉岡誠一郎	山野弘実	上原浩	横山小智榮	岡崎豊子	武内正美	杉原博之	門脇元教	中村剛	田林久嗣	中村道徳	中村邦義	前
高木孝子	笹尾加津	門脇清明	武内隆夫	渡邊立生	虫明立生	佐藤真孝	赤木素志	森本忠善	中村初美	内海安子	上原順子	三島渉	岡崎真一	上原繁道	上原繁次	田中隆之	吉岡壽	後

祭主	大教会長様
扨者	岡崎真一 田中隆之

賛者	横山逸郎
指図方	田林久嗣 上原繁道

講話	今川昌彦
----	------

九月講話	岡崎真一
------	------



私はいわゆるガラケーを使っています

後半
香地華 渡辺美恵子
照雲 雑賀元生
行藤 下田高德

有志
福芦 藤原徳美
福芦 藤原鈴江
甲井 山田敏教
甲井 山田信子
瑞雲 豊田俊美

る。自室にはパソコンがあり、仕事に使用して外にいるときにインターネット等利用できるスマホを必要としない。元々携帯を持つのも嫌だった。何だかいつも自由を拘束？ されているようにも思えたからだ。しかし、母が身上となり、何処に居ても連絡が必要となり、持つようになった。一旦持つとその便利さに離せなくなってしまった。使用の機種の会社から三日にあげずに「スマホに換えませんか？」とお誘いが来る。私は電話とメール、目覚まし機能がなければ十分なんです。それに格安ですと言われてつい換えてしまうと私はもう一日手放せなくなるのは目に見えている。電車に乗れば若い人達はみんな、みんなスマホを使っている。歩きながらでも見ている。私は苦々しく思ってた彼らを見ているが、間違いなく同じようになるだろう。考えてみれば私は恐れているんです。はまってしまおう自分に。適切に使っている人はすごいなあ。自制心がある。私にはそれがありません。残念。

(す)

昭和47年 (1972年)	立教135年
1. 1 笠岡大教会機構之分掌 四月一日施行	3. 26 久松分教会六代会長 中村 剛任命 (五代会長中村寛一 昭和四十六年十二月 十八日出逝)
3. 26 就任奉告祭：五月十一日	3. 26 就任奉告祭：五月五日
3. 26 芳井分教会三代会長佐藤道孝任命 (二代会長佐藤静築 昭和四十六年十二月七日出逝)	3. 26 就任奉告祭：五月七日
3. 26 ひろきと分教会五代会長淺野和芳任命 (四代会会長高田通昭辞任)	3. 26 就任奉告祭：五月七日
3. 26 麗連分教会二代会長織田儀一任命 (初代会会長織田儀之助辞任)	3. 26 就任奉告祭：五月七日
3. 26 允中分教会三代会長野口稔彦任命 (二代会長野口静太郎辞任)	3. 26 就任奉告祭：五月三日
4. 1 神慶奉仕者心得及び要領発表表	

以下順次「かさおか」誌その他の史料で大教会の主立った出来事を時系列に従って列挙書き進めてゆく。

12. 21 笠岡大教会人事 付属建物建坪 二千九百二十六平方メートル 青年 岡本信治 中村剛

昭和46年 (1971年)	立教134年
1. 6 神慶鉄骨組上完了	2. 21 神慶立柱式
5. 5 笠岡大教会二代会長・上原伊助五十年祭同夫人・上原光十年祭執行	5. 20 神慶屋根工事完了
5. 30 神慶屋根工事完了	6. 1 新井戸掘工事着手
6. 7 安田ケンズ博士 (インゼニア+大学教授) 作庭のため来会 (二カ月滞在)	8. 8 庭園池工事並びに中庭作庭工事は完了
9. 3 お社到着	9. 13 役員家族入居開始
9. 20 外溝工事完了	9. 20 久善、飯尾の各家入居。
9. 22 奉告祭役割発表表	11. 10 真柱御夫妻お入り込み
11. 11 鎮座祭	11. 11 移転建築落成奉告祭並びに創立八十周年記念祭執行 (七千人余)
	敷地 三万三千二百八十一平方メートル
	神慶建坪 三千二百十平方メートル